

令和 5 年度境港市原子力防災訓練

【全般】 令和5年度原子力防災訓練実施概要

1 今年度の特徴

- (1) 一時集結所での安定ヨウ素剤服用訓練を、渡・外江公民館に集約し実施
- (2) 福祉車両による避難行動要支援者の住民避難訓練を実施
- (3) 広域避難所までのバス及び自家用車による避難訓練を実施
- (4) 広域避難所運営訓練を実施

2 実施日時

- (1) 災害対策本部等運営訓練 10月19日(木) 8:30~15:00
- (2) 原子力防災講座 (Web講座併用)
 - 外江公民館 10月27日(金) 19:00~20:30
 - 渡公民館 10月28日(土) 15:00~16:30
- (3) 住民避難訓練等 11月5日(日) 8:00~16:30

3 実施場所

境港市役所災害対策本部室、一時集結所(渡公民館、外江公民館ほか)
東伯総合公園、鳥取東高等学校、鳥取市立修立小学校

4 訓練内容

- (1) 災害対策本部等運営訓練
- (2) 広報・情報伝達訓練
- (3) 住民避難訓練
- (4) 避難退域時検査等訓練
- (5) 広域避難所運営訓練
- (6) 安定ヨウ素剤服用訓練
- (7) 避難誘導・交通規制訓練
- (8) 福祉車両による避難行動要支援者の避難訓練
- (9) 幼稚園・保育園等の避難等訓練

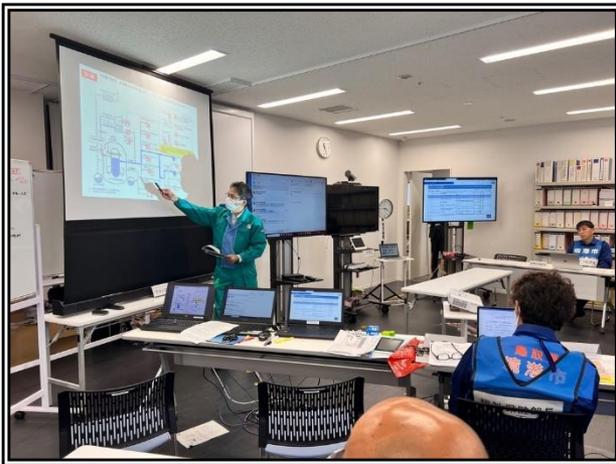
主要な訓練項目	目 標 等	成 果 ・ 課 題 等
全般	地域防災計画及び広域住民避難計画の深化と避難のさらなる実効性向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 訓練は特段の混乱もなく円滑に実施できた。 ○ 事前の研修により防災意識を高めることができた。
災害対策本部運営訓練等	<ol style="list-style-type: none"> 1 各関係機関等との連携要領及び初動対応要領を確認する。 2 各種情報伝達手段による適時適切な実施について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地震災害対応から、A L、S E、G Eへと状況の進展に応じた対応方針の確認、指示や情報伝達の確認ができた。 ○ 庁内の報告・情報共有手順、関係機関への連絡手順等を通じて、災害対策本部運営を確認することができた。 ○ NISSやテレビ会議システムの活用により機器取扱いの習熟が図られた。 × 住民への情報伝達の際に、エリアメール配信ができていなかった。 ⇒マニュアルの改善と引継ぎの徹底 × 複数のシステムを並列して使用するため、職員負担が大きかった。
住民避難訓練	<ol style="list-style-type: none"> 1 避難行動要支援者及び支援者の一時集結所までの避難手順の理解を深める。 2 原子力災害における避難行動要支援者の避難手順の確認・検証や、参加住民の避難計画等への理解促進を図る。 3 避難経路の選定、避難退域時検査及び広域避難所等の手順を確認・検証する。 4 安定ヨウ素剤の服用説明、問診、模擬服用訓練を実施し、安定ヨウ素剤に関する知識と服用までの手順等の確認を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 原子力災害時の避難行動要支援者の避難について、支援者となった近隣住民に支援についての理解が深まった。 ○ 安定ヨウ素剤の服用訓練においては安定ヨウ素剤の模擬服用により服用の流れを分かりやすく説明できた。 ○ バス、自家用車や福祉車両等の様々な避難手段による住民避難を実施することで、避難計画の周知が図られた。 ○ 広域避難所への避難及び避難所での受付手順等の確認ができた。 ○ 自家用車避難訓練参加に公募枠を設けたことにより、参加者の増加につながった。 ○ 参加者に対して、避難時の服装等のポイント等を周知していたことから、帽子やカッパを着用する等適切な対応がとられていた。 × カーナビゲーションが無い参加者が、道に迷ったケースがあった。 ⇒案内方法の充実が必要。 × 地区別パンフレットを利用・持参している参加者が少なかった。 ⇒周知・普及の徹底を図る。

1 会議等**災害対策本部等運営訓練（33名）**

- ① 地震・原子力災害の進展に応じた対策会議等の実施
- ② 警察・消防・中国電力及び国・2県6市等との情報共有
- ③ 災害対策本部室の電気・通信環境の確認及び庁内LANによる情報共有

2 情報伝達訓練等

- ① 原子力防災NWシステムによる情報共有・送受信
- ② Web会議システムを用いた情報共有
- ③ ビジネスチャットを用いた情報共有、各種情報伝達

**【中国電力による事象説明】****【災害対策本部会議】****【合同対策協議会】⁴**

住民避難訓練

1 住民避難訓練等概略図

(1) バス、自家用車による避難訓練を実施

(2) 避難退域時検査(東伯総合公園),広域避難所運営訓練(鳥取東高,修立小学校)



2 参加者数等

訓練内容		住民参加				警察	消防団	市職員
		渡地区	外江地区	公募参加	計			
バス避難訓練 (安定ヨウ素剤配布訓練 含む)	避難行動 要支援者訓練	5人	5人		10人	10人	10人	4人
	中電福祉車両 による避難	3人			3人			1人
	一般避難訓練	22人	18人		40人			18人
自家用車避難訓練		7台16人	6台12人	2台5人	15台33人			
合計		46人	35人	5人	86人	10人	10人	23人

住民避難訓練等実施状況



【安定ヨウ素剤服用訓練】



【福祉車両による避難行動要支援者の避難訓練】



【避難退域時検査等訓練】



【広域避難所運営訓練】



【車両検査】



【簡易除染】



【住民検査】



【検査済証の発行】



【鳥取市職員による避難者への説明】



【原子力災害及び防護措置全般について研修】



【鳥取市職員による避難生活環境などの説明】



【避難生活環境などの体験】

住民避難訓練アンケート結果(1/2)

(回答数 68/86人)

年代別：80歳代：4人 70歳代：15人 60歳代：32人 50歳代：10人 40歳代：1人
30歳代：2人 20歳代：2人 20歳未満：2人

【PAZ・UPZの区分への理解】

★ 知っている : 49人
・ 知らなかった : 13人
・ 無回答 : 6人

【広域避難計画への理解】

★ 知っていた : 61人
・ 知らなかった : 4人
・ 無回答 : 3人

【避難指示が出された場合の行動】

★ バスで避難所へ : 28人
★ 自家用車で避難所へ : 35人
・ 自家用車で親戚・知人宅へ : 3人
・ その他 : 1人
・ 無回答 : 1人

【屋内避難への理解】

★ 知っていた : 61人
・ 知らなかった : 4人
・ 無回答 : 3人

【食料・飲料等の備蓄】

・ 約7日分 : 5人
・ 約5日分 : 4人
★ 約3日分 : 26人
・ 約1日分 : 9人
・ 準備していない : 23人
・ 無回答 : 1人

【今回の訓練での理解の深化】

★ わかった : 65人
・ わからなかった : 0人
・ 無回答 : 3人

住民避難訓練アンケート結果(2/2)

【伝わった広報手段】（複数回答）

- ★ エリアメール : 37人
- ★ 防災行政無線 : 24人
- ★ トリピーメール : 10人
- ・ 原子力防災アプリ : 9人
- ・ 広報車 : 6人
- ・ SNS : 1人
- ・ Yahoo! 防災速報 : 2人
- ・ 伝わらなかった : 0人
- ・ その他 : 12人

※「その他」について、自治会、市報、FM山陰との回答があり、質問の趣旨が異なったものと考えられる。

【安定ヨウ素剤への理解】

- ★ 十分理解できた : 28人
- ★ 概ね理解できた : 23人
- ・ 無回答 : 17人

【避難退域時検査への理解】

- ★ 十分理解できた : 36人
- ★ 概ね理解できた : 26人
- ・ 無回答 : 6人

【避難先・地域の避難後の理解】

- ★ 十分理解できた : 23人
- ★ 概ね理解できた : 38人
- ・ あまり理解できなかった : 1人
- ・ 全く理解できなかった : 1人
- ・ 無回答 : 5人

【避難実施の確実性】

- ★ 確実に行える : 10人
- ★ 何とか避難できる : 46人
- ・ 避難は難しい : 6人
- ・ 無回答 : 6人

自由記載欄 ご意見、ご感想等①

○避難訓練全般

- ・ 実際避難する事は大変な事だと実感しました。
- ・ 避難者が集中（境港市民が一度に動けば）するとむづかしい。
- ・ 事前に訓練しておくことは大切だと感じました。
- ・ 交通の距離が心配、境港→東伯→鳥取が一日に行けるかどうか？
- ・ 毎回自治会の役員が参加しており(希望者がいないため)何回も参加している会員がいる反面、ほとんど知らない人（興味ない者）もいるので、今後他の人も参加するようやり方を考える必要があると思う。
- ・ 実際はたいへんだろうと思いました。高齢者も多いですし、また外国人などへの対応はまだまだと感じました。配布物だけでも対応しておけば良いと思います。境港市はベトナム人が多く、最近カンボジア、ミャンマーまでも…

○避難手段

- ・ 自家用車で来た場合の流れをもっと知りたかった。
- ・ 今回はバス避難訓練でしたが、実際の場合は自家用車になるでしょう。行く先々での行動案内が欲しい。

自由記載欄 ご意見、ご感想等②

○避難退域時検査会場

- ・ 避難退域時検査会場の駐車場での検査は時間がかかりすぎる。本番ではあれではダメだ！
- ・ 避難退域検査会場で避難所までの情報提供を行うとハンドブックには記載されているが情報提供がなかった。

○避難場所

- ・ 今回の訓練で話を聞いた避難方法や場所のことを友人など身近な人にも伝えたい。
- ・ 段ボール(ベット)の設置には利用人数に限られるので、人数の調整を考えてほしい。滞在が長くなると考えられる。
- ・ 避難先の自治体の体制不足、避難者の立場を考えて計画を立てる、来られたら迷惑だと取れる言い方が有った為

○その他

- ・ 車の渋滞が心配、実際にはもっと時間がかかると感じた。